

NEWS RELEASE



セブン&アイ HLDGS.

株式会社 セブン-イレブン・ジャパン

2024年8月26日

～セブン-イレブンの物流における環境負荷低減の取り組み～ CO2排出量低減や燃料コスト削減に向けた 太陽電池搭載配送トラックの実証実験

株式会社セブン-イレブン・ジャパン（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：永松 文彦）は、セブン-イレブン店舗へ配送するトラックに太陽電池を搭載する実証実験を、本年8月より新たに宮崎県と鹿児島県にも拡大いたします。

本実験では、チルド米飯福岡センター（福岡県）が使用する2t トラック1台の車体上部に太陽電池を搭載し、発電した電力を車両走行に活用することで、CO2削減の取り組みおよび効果検証を23年12月より行ってまいりました。また、この仕組みによって、車両走行に必要な軽油量を削減できる想定のため、燃料コストの削減への影響も検証しております。

このたび、当社の物流配送における環境対応の取り組みを加速させるために、チルド米飯宮崎センター（宮崎県）とチルド米飯鹿児島センター（鹿児島県）の2拠点を追加し、2t トラック計6台にて実験を進めてまいります。今回追加した拠点での実験を通じて、日照時間が長いエリアや降灰エリアにおける取り組みを進めてまいります。

今後もセブン-イレブンはさまざまな取り組みを通じて、環境負荷低減に努めてまいります。

＜実施概要＞



＜実証実験内容＞

- セブン-イレブン店舗への配送トラックの車体上部に「CIGS 薄膜型太陽電池」と呼ばれる薄型太陽光パネルを搭載。
- 発電した電力を車両走行に活用し、CO2削減および使用軽油量削減に伴う燃料コストの削減を図る。

＜対象車両＞

- チルド米飯福岡／宮崎／鹿児島センターが使用する2t トラック計6台（運営：ヤマエ久野（株））
※各センター2台ずつの運用

※なお、チルド米飯福岡センターが使用する車両1台については、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の委託事業の一環として、豊田通商株式会社、株式会社システムの協力のもと実際の太陽電池発電量や、走行位置による影響、車速やエンジン回転数などの情報を提供していきます。

＜ご参考＞



▲配送センターに設置された太陽光パネル

当社の物流の環境取り組み①

セブン-イレブン店舗に商品供給を行っている物流センターの建物にも、条件に応じて、太陽光パネルを設置し、CO2削減を図っています。
全国 23 センターに設置し、再生可能エネルギーの活用を促進し、環境負荷軽減を進めています。



▲（上）FC 小型トラック （下）EV トラック

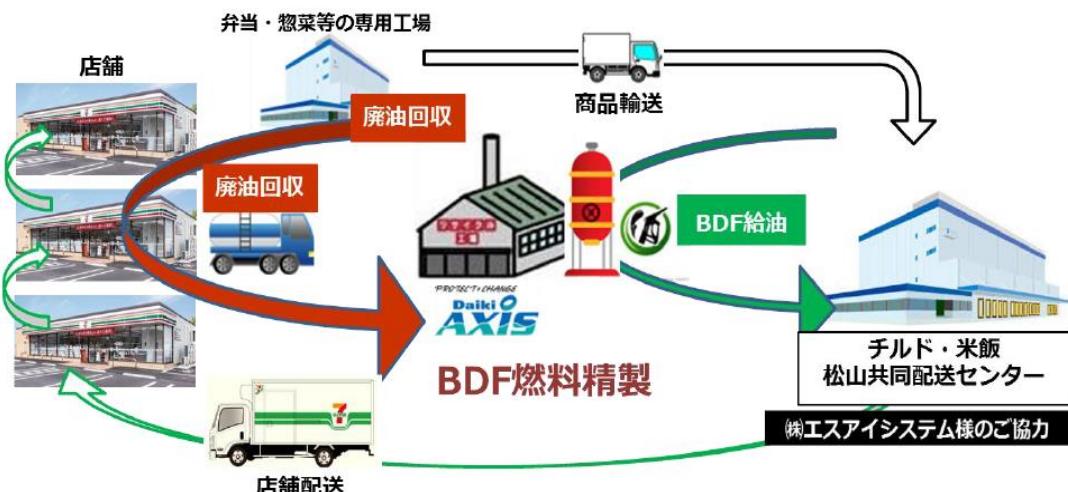
当社の物流の環境取り組み②

水素を燃料とする「FC 小型トラック」の取り組みは業界に先がけて 2019 年 4 月より開始しました。
継続して実証実験を実施しており、2023 年 9 月よりグリーンイノベーション基金事業の一環として、東京都と福島県において店舗配達を実施し、CO2 削減に取り組んでいます。

「EV トラック」については、三菱ふそうトラック・バス株式会社の車両を 2018 年 2 月に開始しました。
現在も導入の拡大を進めており、2024 年にはいすゞ自動車株式会社の EV トラックも導入し、2024 年 7 月末現在、計 9 台が店舗へ配達しています。

当社の物流の環境取り組み③

廃棄される使用済み廃食油をセブン-イレブン店舗や工場から回収し、バイオ燃料を精製し、店舗への配達トラックに活用する循環型スキームの取り組みを 2018 年より愛媛県松山市で実施しています。
2024 年には自治体と連携し、一般家庭などからの廃食油をリサイクルしたバイオ燃料を活用する取り組みを関東で拡大する予定です。



▲循環型スキームのイメージ図

以上